

洋図書書誌新規作成時の迷いをなくすために：多言語を意識して

九州大学農学部図書掛

田中 由紀子

1. はじめに

日本語以外の資料の目録作成作業は、和書よりも疑問が生じることが多いのではないかと思う。特に参照ファイルでもヒットせず、独力で一から書誌を作成しなければならない場合は、ほんの小さな事でも迷ったりするものである。それが初めて扱う言語ならば、なおさらであろう。

何かわからない時、マニュアル類で調べるのはもちろんだが、マニュアルがいろいろあると、一体どれのどこを見たらいいのかわからなくなってしまう、というのが本音である。

また、類似した他の書誌レコードを参考にする場合、複数の類似レコードを見ると記述がまちまちで混乱してしまう事もある。基本的にどういう記述が正しいのか、その根拠はどこにあるのか、それがあいまいなまま書誌を作成（参考にした書誌の記述が幾通りかある場合は、多数のものに合わせるなど）した経験を持つ人もいるのではないだろうか。

目録作成作業のためのまとまった業務マニュアルについては、過去にも取り上げられているので、ここでは細かい事にこだわって、多言語資料の目録について、マニュアルのどこに載っているのかわかりにくい事、各言語の特性に左右される事について考えてみたい。過去の書誌新規作成時の疑問点や、レコード調整で浮上した問題点を手がかりにして、各フィールド別、それから言語別に注意事項をあげていく。

典拠については、適用したマニュアル名に下線を引いて見やすくした。具体例もできるだけあげてみた。

2. 基本資料

- ・英米目録規則 第2版日本語版（以下 AACR2 と記す）

AACR2 はその後改訂を重ね、1988年にそれまでの改訂をまとめて1冊ものとした 1988 Revision、さらにその後の改訂を差替紙片形式にまとめた Amendments 1993 が出版されているが、改訂内容については オンライン・システムニュースレター抜刷集 1.0.4 目録規則「AACR2の改訂について」 で具体的に説明されている。

- ・目録システムコーディングマニュアル（以下 コーディングマニュアル）
- ・目録情報の基準 第3版（以下 基準）
- ・目録システム利用マニュアル 検索編 第4版（以下 検索編）
- ・目録システム利用マニュアル 登録編 第4版（以下 登録編）
- ・オンライン・システムニュースレター（以下 ニュースレター）
- ・オンライン・システムニュースレター抜刷集（以下 抜刷集）
- ・目録情報に関する質問書/回答書データベース（以下 Q&ADB）

3. フィールド別の注意事項

はスペースを表す（スペースがある事を強調したい場合に使用した。）

[記述全般] 参照 コーディングマニュアル 付録6「入力データ記述文法」

- ・ et al. (その他), i.e. (すなわち), sic (そのまま示す = 誤記・誤植)は記述言語に関わりなく共通に使用する (AACR2 1.0F, 1.1F5, 付録 B「略語」 B.4)
(例) America's radical right / Raymond Wolfinger ... [et al.]
Research [i.e. Research]
publikation [sic]
- ・ タイトルページ裏のCIPデータとは? (抜刷集 1.1.1A-2)
CIP データとは、出版物が実際に刊行される前の情報を基に作成された目録情報で、出版事項、形態的事項等が目録対象資料現物と一致していない場合がある。
- ・ 大文字使用法 AACR2 付録 A「大文字使用法 外国語」
- ・ 略語について AACR2 付録 B「略語」
- ・ アラビア数字とローマ数字 AACR2 付録 C「数詞」
アラビア数字に代えると表示が不明確になる場合は、ローマ数字をそのまま使用する。
(例) (The Washington papers ; vol. IV, 36)

[VOLフィールド]

- ・ 先頭のスペースは省略される。 (コーディングマニュアル 4.1.11B)
- ・ 部編名の判断には注意が必要 (基準 p. 33 第2表)
地域区分・年代的区分・形式区分・付録であることを表す名称は部編名である。
- ・ シリーズ番号と共に用いられる用語 (v., no., t. など) は小文字にする。
(言語の規則により例外あり... ドイツ語の Bd. など)
番号体系の一部として用いられる、その他の語やアルファベットによる表現手段は記述対象の慣用により大文字にする。 (AACR2 付録 A「大文字使用法」 A.9B)
(例) v. 1, pt. 1
(例) Ser. 2 ; no. 8
- ・ 巻冊次がなく説明語句だけの場合の表記 (: 説明語句)
(例) VOL.: pbk
- ・ VOLフィールドには識別可能な最低限の情報を記入するにとどめ、それに付随する説明的情報についてはNOTEフィールドに記入する。 (抜刷集 1.1.3A-2)
- ・ hbk. と pbk. は小文字でよいのか? (AACR2 付録 A「大文字使用法」 A.11)
標準番号または定価に付記される限定語は小文字にする。

[TR フィールド]

- ・ AACR2Amen.93 の改訂による変更
大文字使用法 A.4D 「本タイトルのもとに記入される著作のタイトルの初語が冠詞である場合，その次の語も大文字で始める」規定が削除された。
(オンライン・システムニュースレター抜刷集 1.0.4 目録規則「AACR 2 の改訂について」)
(例) AACR2: A Dictionary of American English on historical principles
Amen.93: A dictionary of American English on historical principles
AACR2: Les Cahiers du tourisme / Amen.93: Les cahiers du cinema
- ・ 区切り記号と同一記号があるとき、記号の前後にスペースを空けない形で記号を記入することができる。(Q&ADB)
(例) Der Mensch/Der Philosoph
スペースをいれない
- ・ イニシアル等の間にピリオドがある時はピリオドを付したまま、字あけなしで記録する。(AACR 2 1.1B6)
(例) J.R.L. Allen
- ・ 責任表示なのかタイトルの一部なのか判断に迷うケースがある。
(例) Cahiers Roger Martin du Gard (タイトル)
Cahiersと Rogerの間でタイトルと責任表示に分けてしまった。

[ED フィールド]

- ・ 最初の版表示または副次的版表示が、語またはある語の省略形で始まる場合は、それを大文字で始める。その他の語は、当該言語の規則の指示により要語を大文字で始める。
(例) Facsim. ed.
Neue Aufl.

[PUB フィールド]

- ・ 出版者名の省略には注意が必要である。(AACR 2 1.4D)
(例) S. Fischer か Fischer か Fischer には R. Fischer, Gustav Fischer などいろいろ存在する
- ・ 出版者名の冒頭の冠詞は省略する。ただし文法上の理由によって必要な場合はこの限りでない。(AACR 2 24.5A)
(例) Library Association The Library Association とはしない
[標題紙] At the University Press
[記述] Cambridge : The University Press (The が必要)
- ・ s.l. (sine loco 出版地不明) と s.n. (sine nomine 出版者不明)
n.p. (no place), n.d. (no date) とはしない

[PHYS フィールド]

- ・和書との記述の違いを認識しておく。
(例) 和書 20p : 挿図 (16 図) ; 21cm (スペース・ピリオドなし)
洋書 259 p. : port. ; 26 cm
- ・ローマ数字は、ページ付けまたはページ参照では小文字を使用する。
(AACR2 付録 C 「数詞」 C.1E)
(例) xlili, 289 p.

[NOTE フィールド] 参照 AACR2 1.7, 2.7 「注記エリア」

- ・各注記の初語または注記の冒頭の略語は大文字で始める。注記が 2 以上の文からなる場合は、2 番目以降の各文の初語を大文字で始める。
(AACR2 付録 A 「大文字使用法」 A.10)
- ・どこまで増やせるか 登録編第 1 部 4 「画面とコマンド」表 4
入力可能文字数 1024バイト、フィールドの最大繰り返し可能回数 16
- ・親書誌の場合は NOTE に「子書誌あり」の記述をしたほうがわかりやすい場合がある。

[PTBL フィールド]

- ・記述のレベル
どの程度の記述をすべきか?.....親書誌だからといって、責任表示を記録すべきではないという根拠はない。(Q&A DB)
- ・多階層か並列した親書誌かの判断
中位の書誌だと思ったら、親書誌が対等に並んでいるケースがあった。
- ・情報の見落とし
シリーズ名などの一部が筆記体や絵文字になっている場合、情報を見落としてしまう事がある。
- ・シリーズ番号と共に用いられる語については、VOL フィールドに書いたように大文字・小文字にする。(AACR2 付録 A 「大文字使用法」 A.9B)
(例) v. 1, pt. 1
(例) Ser. 2 ; no. 8
- ・構造の種類 (検索編 「画面とフィールド」)
a = 当該書誌はシリーズである
b = 当該書誌はセットものである
書誌の数だけ繰り返しているかどうか確認すること

[AL フィールド]

- ・AL はそれ自体がリンクブロックであり、書誌記述のブロック内に記述が無いものについては AL に記録できない。責任表示で記録しないを選択した場合、AL には記録できない。(Q&A DB)

4. 言語別の注意事項

[ドイツ語] 参照 ニュースレター No.64「ドイツ MARC の導入」

- ・名詞の最初の文字は大文字
- ・新正書法による変更点 (1998年8月に施行)
全面的な簡素化が図られている。一番顕著な変更は β と ss の使い分けである。
- ・用語・略語 (ニュースレター No.64 の略語一覧にないもの)
 - Abbildung(en) Abb. 挿画
 - ausgewählt ausgew. (=selected)
 - Ergänzung Erg. 補遺
 - herausgegeben hrsg. (=edited)
 - Leinen Ln. 布、クロス装丁
 - Nachdruck Nachdr. リプリント、復刻版
 - Tabelle(n) Tab. 表、図表
 - Tafel(n) Taf. 図表、図版
 - Teil(e) T. 部、part(s)
 - überarbeitet überarb. (=revised)
 - übersetzt übers. (=translated)
 - und u. (=and)
- ・あると便利 ひげ文字 (ドイツ文字) とローマ字の対照表

[フランス語] 参照 AACR2 付録 A「大文字使用法」A.39 フランス語

- ・言語名・宗教名は小文字
(例) l'anglais
- ・固有名から派生する形容詞は小文字
(例) le region alpine
- ・人種・国民を示す名詞は大文字で始める。
(例) les Français
- ・団体名は、初語、最初の名詞の前にあるすべての形容詞、最初の名詞、およびすべての固有名詞を大文字で始める。
(例) Societe de chimie physique
Grand Orchestre symphonique de la R.T.B.
- ・複製本
タイトルページには原本の表記しかないことがあるので、表紙や奥付の情報が重要になる。

[ラテン語]

- ・語形変化が複雑である

(例) 男性名詞 *discipulus* (弟子) 単数の変化

主格	<i>discipulus</i>	「弟子が」
属格	<i>discipulī</i>	「弟子の」
与格	<i>discipulō</i>	「弟子に」
対格	<i>discipulum</i>	「弟子を」
奪格	<i>discipulō</i>	「弟子から」
呼格	<i>discipule</i>	「弟子よ」

- ・固有名詞でも変化する (人名・出版地→「地格」)
- ・U・VとI・J

元来UとVは区別されず、のちにUが母音にVが子音に使い分けられるようになった。Iは母音の[i]にも子音の[j]にも使われていたが、中世になってJの文字が作られ、Iは母音にJは子音に使い分けられるようになった。

U・VとI・Jの使い分けの最近の傾向としては、小文字の場合にはuを、大文字の場合にはVを使い、Jは使わず、Iのみで表す。

◎イスラム圏の言語

[アラビア語]

- ・文字は右から左へ読む (本も右開き)
- ・数字は左から右へ読む
- ・裏表紙に英語タイトルなどがある場合、本タイトルの判断を間違えないようにする。
- ・定冠詞 al (綴り形 … al, el, es など) は基本的に初語でも小文字
(AACR2 付録A「大文字使用法」A2, A4 脚注)

(例) TR:al-Sirah al-sharifah al-Nabawiyah / li-ibn Sa'd

AL:al-Fahham, Shakir

- ・人名には姓はなく、名前だけが男性の家系の連なりとなって成立する。ただし 20 世紀に活躍している個人の名前は姓を含み、その他の名前は姓を含んでいないと仮定する。(AACR2 第 22 章「個人標目」22.22 アラビア文字の名前)

(例) Muhammad 'Ali Hasan (祖父がハサンで父がアリーのムハンマド)

- ・出版年がヒジュラ暦 (A.H.) の場合は、西暦を補記する。年月換算表が必要。

(例) al-Qahirah : al-Mu'assasah al-'Arabiyah al-Hadithah , 1382 [1962]

- ・地名 (→国名) の認識

(例) al-Qahira = Cairo (カイロ)

al-Iskandariyah = Alexandria (アレクサンドリア)

Misr = Egypt (エジプト)

[ペルシア語]

- ・文字はアラビア文字（右から左へ読む）
- ・出版年がイラン太陽暦（K.H.）の場合は、西暦を補記する。西暦への換算は、1月1日 - 3月20日までは622年を加え、3月21日 - 12月31日までは621年を加える。
（例）Tehran : Mu'assasah-i Nashr-i Kalimah , 1373 [1994 or 1995]
（月日が不明の場合）

[トルコ語] 付：用語集（巻末）

- ・文字の辞書での配列順（29文字）
a, b, c, ç, d, e, f, g, ğ, h, ı, i, j, k, l, m, n, o, ö, p, r, s, ş, t, u, ü, v, y, z
- ・i と Turkish - i (ı) をきちんと区別すること
I は ı の大文字であり、i の大文字は İ である
- ・姓の使用が始まったのは1934年の名字法制定後である
- ・語尾を考慮して単語の意味を特定すること。ひとつの単語の語尾が複数つくこともある
（例）-ler または -lar をつければ複数形となる

[その他]

- ・オスマン語はアラビア文字なので、アラビア語と間違えやすい
- ・ハンガリー語の人名は日本と同じく姓 名の順である

5. おわりに

自分自身の疑問で一番多かったのは大文字使用に関する事で、レコード調整で多かったのは、PTBLに関する事だった。PTBLについては、階層の判断から記述文法にいたるまでいろいろな疑問が生じやすいが、このレポートでは十分に記述する事ができなかった。他の部分についても、まだまだ情報としては不十分で、散漫なものになってしまったように思う。今後もこのレポートに肉付けをしていきたいと考えている。

内容については、マニュアル・目録規則等に習熟していない担当者の役に立つものを意識したつもりなので、経験豊かな人にはあたりまえのように感じられる事も多いと思う。

今回自分がマニュアル類を十分に活用してこなかった事を痛感した。特にAACR2については、一部分だけではなく、すみずみまでチェックすればかなりの問題が解決できるはずである。目録初心者の方には是非お勧めしたいと思う。

参考文献

- 洋書目録法入門つくり方編改訂版（日本図書館協会）
" マニュアル編 （ " ）
世界の言語ガイドブック 1：ヨーロッパ・アメリカ地域（三省堂）
" 2：アジア・アフリカ地域 （ " ）
アジア歴史事典（平凡社）第9巻「アジア紀年表」
Multilingual World
（ <http://www.sv.cc.yamaguchi-ac.jp/~inui/inui/multiling/multilingual.html> ）
ラテン語のお話（ http://www.hi-ho.ne.jp/kellopie/latin_index.html ）

付：トルコ語用語集

辞典に載っている「語尾・接尾辞」も参照のこと

- basım 印刷，刷
basımevi 出版社
baskı 印刷，版
bibliyografya 書誌学；文献目録
cilt 巻
çevirici 翻訳者
çevirmek 訳す
derlemek 収集する
dil 言語；舌
dizi シリーズ
hazırlamak 準備する，用意する
hazırlayan 編者
kısm 部分，部，部門
kurum 協会，学会
Türk Dil Kurumu トルコ言語協会
önsöz 序文
sözlük 辞典
târif 記述，説明
târih 歴史；日付
Türk トルコ人；トルコの
Türk tarihi トルコ史
Türkçe トルコ語
Türkiye トルコ
yayın 出版物
yayına hazırlamak 編集する
yazar 著者，筆者